

産肉能力検定で選抜された優良種雄牛

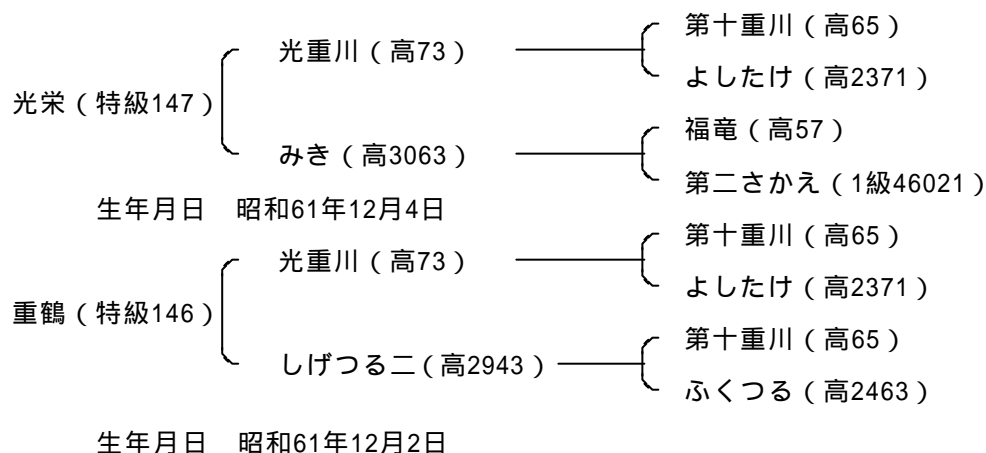
農業研究センター 畜産研究所 生産技術開発部

研究のねらい

肉用牛の改良を促進し、生産物の品質向上と斉一化を図るには遺伝的能力の優れた種雄牛を広域的に利用することが最も効果的である。このため、遺伝的評価の高い優良雌牛と優良種雄牛との交配によって得られた候補種雄牛を産肉能力検定に供し、産肉能力の優れた雄牛を選抜する。

研究の成果

1. 選抜された種雄牛の概要



2. 成績の概要

(1) 直接検定

各号	D G	365日齢補正体重	1kg増体TDN量	粗肥料摂取率	体型資質	総合判定
光栄	1.35 kg	479.4 kg	4.63 kg	26.8 %	83.2	92.5(A)
重鶴	1.36 kg	452.6 kg	5.43 kg	24.2 %	85.5	93.0(A)

(2) 間接検定

各号	開始体重	終了体重	D G	屠殺前体重	枝肉重量	ロース芯面積	BMS
光栄	307.1 kg ± 33.0	668.0 kg ± 52.0	1.10 kg ± 0.13	635.2 kg ± 52.7	410.4kg ± 34.3	48.1c m ² ± 6.5	1.8 ± 0.7
重鶴	307.1 kg ± 33.0	692.1 kg ± 19.1	11.4 kg ± 0.07	658.0 kg ± 15.7	420.7kg ± 11.0	51.8c m ² ± 5.5	1.6 ± 0.5

(3)フィールド検定

一般農家の肥育施設におけるフィールド検定成績では光栄、重鶴ともに終了体重が700kgを越え、ロース芯面積も50cm²以上と大きかった。肉質等級では3等級以上の割合が光栄87.5%、重鶴78.6%であった。

以上の結果からこれらの種雄牛から生産された子牛は高品質な牛肉を生産する割合が8~9割と高く、光栄、重鶴とも他の牛に比べ、2割程度肉質等級の向上が期待できる高能力の種雄牛であることが判明した。



写真 光栄



写真 重鶴